## 「第4期がん対策推進基本計画評価指標一覧」(マスタ)

厚生労働省健康局がん・疾病対策課 (2024年8月5日時点の集計値)

	#	再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果 (対象期間)	結果 (測定値)
一人取り残さな	 いがん対策を								
		一次予防/均	がんの年齢調整死亡率(75歳未満、全年齢)	1001	人口動態統計			【旧基準人口】(75歳未満; 人口	男女計 67.4
		霑・集約/ゲノ						10万対; 2022年)	男性 81.1
		ム/手術/チー ム/支持/実							女性 54.9
		类							
	000002	二次予防	がん種別年齢調整死亡率(75歳未満、全年齢)	1002	人口動態統計			【旧基準人口】(男女計・75歳未	
								満; 人口10万対; 2022年)	大腸 9.7
									肝 3.5
									肺 11.9
									女性乳房 10.4 子宮頸部 2.6
	000003	 難治	難治性がん(代表例:膵がん)の年齢調整死亡率	2002				    【旧基準人口】(男女計・75歳未	
	000003			2002				満; 人口10万対; 2022年)	B+ 7.0
	000004	一次予防	がんの年齢調整罹患率	1003	全国がん登録			【旧基準人口】(全年齢; 人口10	男女計 387.4
								万対; 2019年)	男性 445.7
									女性 346.7
	000005	二次予防	がん種別年齢調整罹患率	1004	全国がん登録			【旧基準人口】(男女計・全年齢・	
								全進展度; 人口10万対; 2019	
								年)	肝 12.0
									肺 42.4
									女性乳房 100.5
	000006	均霑・集約ノゲ		2001	  全国がん登録/院内がん登録	_	_	_	子宮頸部 13.9 未測定
	000007		希少がんの5年生存率		全国がん登録/院内がん登録	_	_	<del> </del>	未測定
	000008		難治性がん(代表例:膵がん)の5年生存率		全国がん登録/院内がん登録	_	_	_	未測定
	000009		小児がん患者の5年生存率		全国がん登録/院内がん登録	-	_	_	未測定
	000010	均霑・集約/ゲ	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	3001	患者体験調査、小児患者体験調査	H30調査回答者全体(本人回答のみ)	問 35-7. 現在自分らしい日常生活を送れていると感じる。 「とてもそう思う、あ	_	70.50%
		ノム/手術/					る程度そう思う」と回答した割合		
		チーム/支持/ 緩和/妊孕/							
		難治/高齢者							
		/実装/相談							
		支援/社会連携/サバ/ライフ	,						
	000011		現在自分らしい日常生活を送れていると感じる希少がん患者の割合	3001	患者体験調査	■ H30調査希少がん暫定定義該当回答者(本人	 □ 問 35-7. 現在自分らしい日常生活を送れていると感じる。 「とてもそう思う、あ	_	69.20%
						回答のみ)	る程度そう思う」と回答した患者の割合		
	000012	小児AYA	現在自分らしい日常生活を送れていると感じる若年がん患者の割合	3001	患者体験調査	H30調査40 歳未満回答者(本人回答のみ)	問 35-7. 現在自分らしい日常生活を送れていると感じる。 「とてもそう思う、あ	_	66.80%
						1130過且40 成不過回召召 (本八回召0007)	る程度そう思う」と回答した患者の割合		
処に基づくがんう		_							
別アウトカム指標	票 100001		がん種別年齢調整罹患率(胃・大腸・肺・女性乳房・喫煙関連がん)	1004	全国がん登録			【旧基準人口】(男女計・全年齢・	
								全進展度; 人口10万対; 2019	
								年)	肝 12.0 肺 42.4
									女性乳房 100.5
									喫煙関連がん 未測定
	100002		がん種別年齢調整罹患率(肝・ATL・子宮頸部)	1004	全国がん登録	_	_	_	未測定
	100003		検診がん種別早期がん割合		全国がん登録			_	未測定
	100004		検診がん種別進行がん罹患率		全国がん登録	_	_	_	未測定
予防									
<b>または</b>		1							
プット指標	-		指標設定無し(厚生労働審議会 地域保健健康増進栄養部会 次期プラン推進専門委員会(仮な) 2000年に対し、2000年に対し、2000年に対し、2000年に対し、2000年に対し、2000年に対し、2000年に対し、2000年に対し、2000年に対していません。	-					
プルトに抽	111101		称)での取組評価を注視)) 柳片病院等*1で実施した。地域を対象とした。がんに関するセミナー等の関係同数(総数)		11127日本書		が、診底連携加上庁院笠で守佐した、地球を社会して、が、に関すった。	今和 4 年	1 717回
トプット指標	111101		拠点病院等*1で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	令和4年	1,717回
アウトカム指標	111201		BMI18.5以上25未満(65歳以上はBMI20を超え25未満)の者の割合	101Ω	国民健康•栄養調査	  健康日本21(第三次)に準ずる予定	ナー寺の開催回数(総数)   健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	    未測定
	111201	_	食塩摂取量の平均値		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21 (第三次) に準ずる予定	_	未測定
参考】	111202		野菜摂取量の平均値		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21 (第三次) に準ずる予定	_	未測定
51回厚生	111204		果物摂取量の平均値		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
学審議会	111205		1日の歩数の平均値		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
	111206		運動習慣者の割合		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
域保健健	111207		1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者の割合		国民健康·栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
増進栄養	111208		中学生・高校生の飲酒者の割合		厚生労働科学研究	健康日本21 (第三次) に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
<b>『会資料1</b>	111209		20歳以上の者の喫煙率		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
ייי	111210		望まない受動喫煙(家庭・職場・飲食店)の機会を有する者の割合		国民健康・栄養調査	健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定
•	111211		中学生・高校生の喫煙者の割合 妊婦の喫煙率		厚生労働科学研究 こども家庭庁	健康日本21(第三次)に準ずる予定 健康日本21(第三次)に準ずる予定	健康日本21(第三次)に準ずる予定 健康日本21(第三次)に準ずる予定	_	未測定 未測定
	111212				· · · · · ·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-	

	# 再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象 (分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
かをについて								
対策について /								
プウトプット指標	112101	HPVワクチン定期予防接種実施率	-	地域保健·健康増進事業報告	総務省公表「人口推計」における当該ワクチンの標準接種期間(13歳)に該当する女性の人口		令和3年度	37.40%
<b>炎</b> アウトプット指標	112102	肝疾患専門医療機関数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査	なし	全都道府県における肝疾患専門医療機関数	令和3年度	3,226施設
	112103	肝炎医療コーディネーターの養成者数	-	地方自治体における肝炎対策実施状況調査	なし	全都道府県における肝炎医療コーディネーターの養成者数	令和3年度	4397人
	112104	B型肝炎定期予防接種実施率			総務省公表「人口推計」における当該ワクチンの標準接種期間(0歳)に該当する人口	地域保健・健康増進事業報告においく報告されば年間接種有数	令和3年度	96.97%
中間アウトカム指標	112201 112202	B型・C型肝炎ウイルス検査受検率 B型・C型肝炎ウイルス陽性者数	参2 参1	厚生労働科学研究 「地域保健・健康増進事業報告 (健康 増進編)」及び「特定感染症検査等事 業実績報告」		肝炎ウイルス検査受検者数 B型・C型肝炎ウイルス陽性者数	令和3年度 令和3年度	HBV 71.1% 6,352人
<b>TLV-1</b> アウトプット指標	112105	HTLV-1関連のホームページの閲覧数(厚労省や厚生労働科学研究班作成のホームページのPV	-	厚生労働省調べ	厚労省と厚生労働科学研究班作成のホームペー		令和4年度	226,589件
	112106	数) HTLV-1関連の窓口数	-	感染症課調査	ジ なし	都道府県、政令市・中核市等保健所設置市に対するアンケートで回答を得た 窓口数	令和4年度	1,405箇所
	112107	HTLV-1の保健所の検査数	-	感染症課調査	なし	都道府県、政令市・中核市等保健所設置市に対するアンケートで回答を得た 検査件数	令和4年度	87箇所
	112108	妊婦健康診査におけるHTLV-1抗体検査の公費負担実施率	-	母子保健課調査	全国の市町村数	妊婦健康診査においてHTLV-1抗体検査の公費負担を実施している市区町 村の割合	令和4年	100%
中間アウトカム指標	112203	ヒトT細胞白血病ウイルス1型感染率	参4	厚生労働科学研究	なし		令和2年	658,000人
アウトプット指標	-	検討の段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
2次予防(がん検診								
<b>彡率向上対策について</b> ┃アウトプット指標		施策を検討する段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	_	-				
アウトプット指標	121101	受診勧奨実施市町村数(特別区を含む、以下同じ)	-	市区町村におけるがん検診の実施状況調査	2023年度調査-各がん検診実施市町村数	⑤「個別受診勧奨を実施した」と回答した数	令和5年	胃;84.1%、 大腸;85.5%、 肺;82.3%、 乳;85.0%、
	121102	普及啓発キャンペーンの実施状況(資料の実質配布枚数、イベント参加者数)	-	がん検診受診率60%達成に向けた集中 キャンペ-ン月間実施状況調査	なし	普及啓発キャンペーンで配布した資料の数とイベントの参加者数(延べ人数)	令和5年	子宮頸; 85.2% 資料の実質配布枚数: 1,900,852枚 イベント参加者数: 203,642人
	121103	施策を検討する段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること) 指針に基づく検診の実施率	-	保険者デ-タヘルス全数調査	_		_	未測定
		検診受診率	1031	国民生活基礎調査	2022年度調査 2健康票 第132表の「総数」	胃;50~69歳/過去2年、大腸·肺;男女計40~69歳/過去1年、乳;女40~69歳/過去2年、子宮頸;女20~69歳/過去2年	令和4年度	胃; 48.4%、 大腸; 45.9%、 肺; 49.7%、 乳; 47.4%、 子宮頸; 43.6%
ん検診の精度管理等に アウトプット指標	<b>ついて</b>   122101	がん検診の精度管理について技術的支援を行った市町村への支援数(特別区を含む)	-	厚生労働科学研究	+>1	2021年度都道府県がん登録室調査:「質問の文言を」47都道府県を対象	令和3年度	40市町村(18条申請36、19条申請4)
	122102				る は は に に に に に に に に に に に に に	とした、がん登録資料の利用市町村数		
	122102	精密検査受診率の低い市町村の実態把握を行い、実際にそれらの市町村に指導・助言等の取り組みを実施した都道府県数		都道府県用チェックリスト実施率調査	2022年度調査回答47都道府県数 (集団·個別)	下記項目すべてを「実施した」と回答した都道府県数8. 精度管理評価に関する検討; (1-c) 市区町村毎のプロセス指標値を把握し、評価を行っているか(2) 評価の低い、もしくは指標に疑義※のある市区町村や検診機関に、聞き取り調査や現場訪問を行って、原因を検討しているか(3)上記の評価結果を踏まえて、精度管理上の課題と改善策を策定しているか9. 評価と改善策のフィードバック(指導・助言); (1-b)市区町村毎のプロセス指標の評価を個別にフィードバックしているか(1-c)精度管理に課題のある市区町村に改善策をフィードバックしているか	令和4年度	胃X線;集団36.2%、個別31.1%、 胃内視鏡;集団34.6%、個別31.1%、 大腸;集団38.3%、個別30.4%、 肺;集団38.3%、個別30.2%、 乳;集団38.3%、個別30.4%、 子宮頸;集団38.3%、個別30.4%
	122103	全被用者保険者における要精密検査対象者への受診勧奨の実施割合	-	保険者デ-タヘルス全数調査	がん検診の実施状況に関する項目の回答対象係 険者 (分母の数:1467)	要精密検査対象者への受診勧奨を「実施している」と回答した保険者数(分子の数・354)	令和4年度	24.1% (分量の数・1467 分子の数・354)
	122104	正しいがん検診の周知のため、住民に対し、がん検診の正しい情報提供を実施した市町村数	-	市区町村用チェックリスト実施率調査	陝者 (分母の数: 1467)   2022年調査回答市町村数 (集団・個別)	子の数:354)  3-(1) 受診勧奨時に、「検診機関用チェックリスト 1.受診者への説明」が全項目記載された資料を、全員に個別配布したか」への回答	令和4年度	(分母の数:1467 分子の数:354) 胃(X線);集団78.6%、個別68.0%、 胃(内視鏡);集団67.1%、個別69.0%、 大腸;集団77.4%、個別69.0%、 肺;集団76.0%、個別62.6%、 乳;集団78.5%、個別67.5%、 子宮頸;集団78.8%、個別67.3%

	#   再掲	指標 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	3期   デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値) 
門アウトカム指標	122201	精密検査受診率	1032 地域保健·健康増進事業報告			令和2年度	胃X線;79.7%、
				2020年度報告、胃;50-74歳、大腸・肺・乳;			胃内視鏡;92.6%、
				•	精検受診者数=要精密検査者数-未受診-未把握		大腸;70.2%、
				<b>数</b>			肺;82.6%、
							乳;89.8%、 子宮頸;76.6%
	122202	がん発見率	- 地域保健·健康増進事業報告			令和2年度	する頭 , 76.6%   胃X線 ; 0.071% 、
	122202	13 70 70 70 <del>-</del>					胃内視鏡; 0.200%、
				2020年度報告、胃;50-74歳、大腸・肺・乳;			大腸; 0.157%、
				40-74歳、子宮頸;20-74歳の受診者数			肺; 0.027%、
							乳; 0.308%、
							子宮頸 ; 0.026%
	122203	偽陽性割合	- 地域保健・健康増進事業報告			令和2年度	胃X線;5.9%、
							胃内視鏡;6.6%、
				2020年度報告、胃;50-74歳、大腸・肺・乳;	要精検者数		大腸;6.1%、
				40-74歳、子宮頸 ; 20-74歳の受診者数			肺;1.5%、
							乳;6.3%、 子宮頸;2.5%
根拠に基づくがん核	     検診の実施について						
フトプット指標	-	指標設定無し (着実に検討を進めること)	1022			<b>△和</b> F 左座	ノ投診店ロン ノもみ ケェハン ノム・ハロワーン
ウトプット指標	123101	指針の遵守市町村数	1033  市区町村におけるがん検診の実施状況調			令和5年度	(検診項目)       (対象年齢)       (検診間隔)         (関・64.00%       関・6.70%       関・5.40%
							胃;64.0%、  胃;6.7%、  胃;5.4%、 大腸;93.3%、 大腸;77.7%、  大腸;99.9%、
				2023年度調査回答市町村数	検診項目・対象年齢・検診間隔毎の指針遵守		
							乳;45.8%、乳;85.3%、乳;44.0%、
							子宮頸; 72.4%、子宮頸; 98.1%、 子宮頸; 37.9%
	123102	指針に基づかないがん検診の中止市町村数	参8 市区町村におけるがん検診の実施状況調	2022年度調査で指針に基づかないがん検診実	2022年度調査と2022年度調査との美公	令和4年度	13市町村
			查	施市町村数(1423)	2023年度調査と2022年度調査との差分		
	-	指標設定無し(着実に検討を進めること)					
	-	指標設定無し(着実に検討を進めること)					
 :位で持続可能なか	-	指標設定無し(着実に検討を進めること)					
野別アウトカム指標		がんの診断・治療全体の総合評価(平均点または評価が高い割合)	2005 患者体験調査		問23. 今回のがんの診断・治療全般について総合的に0~10 で評価すると何	平成30年度	7.9点
	200001	13 7000 BY 12 13 THOUSE OF THE CASE OF THE STATE OF THE S		H30患者体験調査全回答者	点ですか? 回答選択肢: { (最低な医療) 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 (最		7.5/m
					高の医療)}の回答者全員の平均点		
	200002	小児がん患者のがんの診断・治療全般の総合評価(平均点又は評価が高い割合)	2005 小児患者体験調査		問 25. 今回のがんの診断・治療全般に関し、受けた医療を総合的に 0~10	令和元年度	8.4 点
				R1小児患者体験調査回答者全体	で評価すると何点ですか。回答選択肢:{(最低な医		
					療),1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 (最高の医療) } の回答者全員の平均点		
	200003	若者がん患者のがんの診断・治療全体の総合評価(平均点または評価が高い割合)	2005 患者体験調査		問23. 今回のがんの診断・治療全般について総合的に0~10 で評価すると何		7.8 点
				H30調査40 歳未満回答者	点ですか? 回答選択肢:{ (最低な医療) 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10 (最		
	200004	即の上が立いた。スポノ医療は米佐がより、ツマケルトトロス中での別へ	2002		高の医療) } の回答者全員の平均点	亚十20万克	75.600
	200004	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと思う患者の割合	2003 患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 30-1. 一般の人がうけられるがん医療は数年前と比べて進歩した 「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した患者の割合	平成30年度	75.60%
	200005				[とくもでうぶう、める程度でうぶう]と凹合した忠有の割占   問 15-1.「がん治療」を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な	平成30年度	75.00%
	200003	に次次とよくに区次入ノノノガラロ次に対する「万な旧中Xと行う」に心日の引口	心日件吸入的日	H30患者体験調査全回答者	情報を得られた[とてもそう思う、ある程度そう思う]と回答した患者の割合	十/3,50平/支	75.00 70
	200006	身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3012 患者体験調査		問 36-2. がんやがん治療に伴う身体の苦痛がある。(身体の苦痛とは、痛み	平成30年度	55.40%
				H30患者体験調査回答者全体(本人回答の	に限らず、吐き気、息苦しさ、だるさ、しびれ、かゆみなどの、体のつらさを含みま		
				<i>(t</i> )	す)「あまりそう思わない、そう思わない」と回答した患者の割合		
	200007	精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3013 患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答の	問36-4.がんやがん治療に伴い、気持ちがつらい	平成30年度	62.00%
	200008	療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015 遺族調査	  2019-2020年遺族調査全回答者	問18b. 死亡前1カ月間、からだの苦痛が少なく過ごせた, 回答選択肢「1 全く	令和元~2年度	46.9%
	200000		2016		そう思わない~4 どちらとも言えない」と回答した割合	<b>△和二、3ケ</b> 笠	42.10/
	200009	療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3016 遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18c. 死亡前1カ月間、おだやかな気持ちで過ごせた,回答選択肢「1 全く そう思わない~4 どちらともいえない」と回答した割合	万仙元~ 2 年度 	42.1%
	200010	 在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033 遺族調査のサブグル-プ解析(全死亡のう	2019-2020年遺族調査回答者のうち 白字死	問14. お亡くなりになった場所で受けた医療は全般的に満足でしたか, 回答	↑   令和元~2年度	79.1%
	-55515		5033   遠浜調査のタブブル ブバイバー(主允とのグ	亡者	選択肢「3 やや満足~6 非常に満足」と回答した割合	- 14/5 1/2	1,
	200011	希少がんについて、担当した医師ががんについて十分な知識や経験を持っていたと思う患者の割合	2083 患者体験調査	H30患者体験調査希少がん暫定定義該当回答	問 20-8. あなた (患者さん) のがんに関して専門的な医療を受けられた。「と	平成30年度	80.00%
				者	てもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合		
提供体制等	- #= 05-11-						
供体制の均てん化		グルション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・	田知中本	1+N	<b>邦塔広目协議会示処割ひ担に関する議論を持続したもった。2.247学売中で</b>	今和2左帝	2 [ 邦( ) 岩   広   旧
フトプット指標	211101 211102	役割分担に関する議論が行われている都道府県の数 がん治療前にセカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	- 現況報告書 2025 患者体験調査	なし 	都道府県協議会で役割分担に関する議論が行われている都道府県の数問 13. がんの治療が始まる前に、担当医からセカンドオピニオンについて話があり	令和3年度 平成30年度	35都道府県 34.90%
	211102	/ス/V/ロ/永市バにこガノト/バヒーハノに対するinで文りたが心志有の部口	2020   心口 竹原火叩旦	H30患者体験調査全回答者	同 13. かんの石寮が始まる前に、担当医からピカンドオモニオンについて語かのり  ましたか。「話があった」と回答した割合	〒/3从30+11文	J-1.50 /0
	211103	BCPに関する議論が行われている都道府県の数		なし	都道府県協議会でBCPに関する議論が行われている都道府県の数	令和3年度	
	211104	(参考) BCPを整備している拠点病院等の割合	- 現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	BCPを整備しているがん診療連携拠点病院等(428施設)	令和4年度	93.90%
	211105	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数	- 現況報告書	なし	都道府県協議会に小児がん拠点病院等が参加している都道府県の数	令和4年度	32都道府県
	211106	病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等の	- 現況報告書		専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人	令和 4 年度	がん診療連携拠点病院:96.3%
		割合(がん診療連携拠点病院:専従の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の		がん診療連携拠点病院 (409施設)	以上配置されているがん診療連携拠点病院(394施設)		地域がん診療病院:55.3%
		医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の病理診断に携わる専門的な知		地域がん診療病院(47施設)	専任の病理診断に携わる専門的な知識及び技能を有する医師が1人以上配		
	211107	識及び技能を有する医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	117/12/14/14		置されている地域がん診療病院(26施設)	<b>△</b> 和 4 左座	れ、シー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー
	211107	細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療	現況報告書	がたる今後は世界では、大学では、インの大学で	専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されているがん   診療連携物 与病院 (2075年記)	市和4年度 	がん診療連携拠点病院:97.1%
		連携拠点病院:専任の細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合、地域が人診療病院・細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合をそれ		がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	診療連携拠点病院(397施設)		地域がん診療病院:83.0%
		地域がん診療病院:細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている割合をそれ ぞれ評価)		大型大头/J*/Vログ7泉7内P元 (サイ川也記文)	細胞診断に関する専門資格を有する者が1人以上配置されている地域がん診療病院(39施設)		
間アウトカム指標	211201	せんけい   せんりい   もんりい   せんりい   せんりいい	   - 患者体験調査		問 20-8. あなた (患者さん) のがんに関して専門的な医療を受けられた。「と	平成30年度	78.70%
1007 ノーカム1日信	211201	마르크O/CCE마면서서 M / MC > V · C T 기가 (A VHIIM) 단 마모에서 (인) 다 기 (C V VIC C / (U) 기 (U) (단 VIC T) (다	IN DITHINDIE	H30患者体験調査全回答者	てもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合	1 /3/4.50十/又	7.5.7.576
	211202	初診時から確定診断までの期間が1ヶ月未満の人の割合	- 検討中(患者体験調査or院内がん登録		「問 10. なんらかの症状や検診で異常があって初めて病院・診療所を受診した	平成30年度	71.50%
			+DPC or NDB)		日から、医師からがんと説明(確定診断)されるまで、おおよそどのくらいの時間		
				H30患者体験調査全回答者	がかかりましたか。」という質問に、「2週間未満」または「2週間以上 1ヶ月未		
	•		_		満」と回答した人の割合	i	T. Comments of the comment of the co

	# 再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
ウトプット指標	212101	がんゲノム医療中核拠点病院等の数	2011	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院(13施設) がんゲノム医療拠点病院(32施設)	令和5年	がんゲノム医療中核拠点病院:13施設 がんゲノム医療拠点病院:32施設
						がんゲノム医療連携病院(202施設) の数		がんゲノム医療連携病院:202施設
	212102	がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝医学に関する専門的な知識及び技能を有する医師の数*2	2013	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム 医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院)における遺伝医学に関する専門的 な知識及び技能を有する医師の数	令和5年	1,184人
	212103	がんゲノム医療中核拠点病院等における遺伝医学に関する専門的な遺伝カウンセリング技術を有する者の数*2	2014	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム 医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院)における遺伝医学に関する専門的 な遺伝カウンセリング技術を有する者の数	令和5年	756人
	212104		2015	  現況報告書(がんゲノム)	か」。		<u></u>	1,476人
	212105	がんゲノム医療中核拠点病院等におけるがん薬物療法に専門的な知識及び技能を有する常勤の医		現況報告書(がんゲノム)	7.60	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム	1-10-1	1,055人
		師の数*3			なし	医療拠点病院)におけるがん薬物療法に専門的な知識及び技能を有する常 勤の医師の数		
別アウトカム指標	212201	がんゲノム情報管理センターに登録された患者の数		C-CATからのデータ提供	なし	C-CAT調査結果が返却された症例数	令和4年	19,138例
	212202	がんゲノム医療中核拠点病院等において遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリングを実施した患者の	2018	現況報告書(がんゲノム)	なし	がんゲノム医療中核拠点病院等(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム	令和4年7月~令和5年6月	17,881人
	212203	がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルの結果治療薬の選択肢が提示され た割合	-	C-CATからのデ-タ提供	C-CAT調査結果が返却された症例のうち、エキスパートパネルの対応について集計可能な症例数: 18,372	エキスパートパネルの結果治療薬の選択肢が提示された症例数:8,282	令和4年	45.10%
	212204	がん遺伝子パネル検査を実施した患者のうち、エキスパートパネルで推奨された薬剤が投与された割合	-	C-CATからのデ-タ提供	C-CAT調査結果が返却された症例のうち、エキスパートパネルの対応について集計可能な症例数: 18,372	エキスパートパネルで提示された治療薬を投与した(他院で投薬した場合を含む)症例数:1,507	令和4年	8.20%
	212205	ゲノム情報を活用したがん医療についてがん患者が知っていると回答した割合	2020	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 34. ゲノム情報を活用したがん医療について、知っていますか。「よく知っている、ある程度知っている」と回答した割合	平成30年度	17.00%
去・放射線療法・薬	<b>薬物療法について</b>			•	•			·
<b>寮法</b>								
フトプット指標	213101	拠点病院等における我が国に多いがん*4の鏡視下手術の割合	2031	現況報告書	拠点病院等における我が国に多いがんの手術件数 大腸がん:55,232件 肺がん:41,273件 胃がん:23,434件 前立腺がん:17,124件 肝臓がん:10,677件	拠点病院等における我が国に多いがんの鏡視下手術件数 大腸がん:43,731件 肺がん:35,773件 胃がん:15,332件 前立腺がん:16,539件 肝臓がん:4,632件 胆のうがん:104件	令和3年度	拠点病院等における我が国に多いがんの鏡視下手術の割合 大腸がん:79.2% 肺がん:86.7% 胃がん:65.4% 前立腺がん:96.6% 肝臓がん:43.4% 胆のうがん:8.8%
					胆のうがん:1,188件			
	213102	厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業(JANIS)へ登録しているがん診療連携拠点病院等(399施設)	令和4年度	87.50%
間アウトカム指標	213201	我が国に多いがん*4の術後短期死亡率	2032	院内がん登録+DPC		_	_	未測定
 線療法	213202	診断から手術までの日数(術前化学療法の対象外のがん種・ステージ患者に対象を限定)	-	院内がん登録+DPC		_	_	未測定
トプット指標	213103 213104	IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院*5の割合 専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されてい		現況報告書 現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	IMRTを提供しているがん診療連携拠点病院 (297施設) 専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が 1	令和 4 年度 令和 4 年度	72.60% 96.10%
		るがん診療連携拠点病院の割合			がん診療連携拠点病院(409施設)	人以上配置されているがん診療連携拠点病院(393施設)		
	213105 213106	常勤の診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合 専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院の割合	-	現況報告書 現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)がん診療連携拠点病院(409施設)	常勤の診療放射線技師が2人以上配置されているがん診療連携拠点病院 専従の放射線治療に関する専門資格を有する常勤の看護師が放射線治療部 関に1人以上配置されているが人診療連携拠点病院 (2045年)	令和 4 年度 令和 4 年度	96.60% 49.90%
	_	れているがん診療連携拠点病院の割合 あり方の検討段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-		門に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(204施設)		
ガアウトカム指標	213203	放射線治療関連QI(拠点病院等(QI研究参加施設*6)における標準的治療の実施割合)	-	   院内がん登録+DPC	_	_	_	
	213204	拠点病院等(QI研究参加施設)における手術から放射線治療開始までの期間	-	院内がん登録+DPC	_	_	_	未測定
<b>療法</b>								
トプット指標	213107	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療 連携拠点病院の割合			がん診療連携拠点病院(409施設)	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(371施設)		90.70%
	213108	薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	•		がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(408施設) 専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている地域がん診療病院(47施設)		がん診療連携拠点病院:99.8% 地域がん診療病院:100%
	213109	がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(341施設) 専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている地域がん診療病院(33施設)	令和 4 年度	がん診療連携拠点病院:83.4% 地域がん診療病院:70.2%
	213110	免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応している拠点病 院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	免疫関連有害事象を含む有害事象に対して、他診療科や他病院と連携等して対応しているがん診療連携拠点病院等(456施設)	令和4年度	100%
	213111	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	自施設で対応できるがんについて提供可能な診療内容を病院HP等でわかりやすく広報しているがん診療連携拠点病院等(456施設)	令和4年度	100%
明 7 5 L 4 7 145 12年	- 212205	方策の検討段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)  (大学療法・/薬物療法・思達のよく物・長原等 (OTTTを参加を選及) における標準的治療の実体制	-					土畑中
引アウトカム指標	213205	化学療法/薬物療法関連QI(拠点病院等(QI研究参加施設)における標準的治療の実施割合) 遅延なく化学療法が行えているか(例:術後化学療法における手術から化学療法まで、あるいは、		院内がん登録+DPC 院内がん登録+DPC	-  _		_	未測定 
	213200	進延なれて子療法が行えているが(例:例後化子療法にありる子例から化子療法まで、あるいは、 進行例における診断から化学療法までの期間)*7		MPL 3/1 1/10 PT TNY L DEC				
	213207	科学的根拠を有する免疫療法について国民が必要な情報を取得できている割合	2043	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問 10. がんの免疫療法とは、がん患者自身の免疫機能を高めることでがん細胞を排除する治療法です。あなたは、がんの免疫療法について、どのように思いますか。(複数選択可)「がんの免疫療法の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う」を回答した割合	令和5年度	16.90%

	# 再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
 療の推進								
プット指標	214101	緩和ケア診療加算の算定回数	-	検討中(NDB等を活用し厚労科学研究	<u> </u>	_	_	未測定
	214102	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	-	検討中(NDB等を活用し厚労科学研究		_	_	未測定
	214103	地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議し、体制整備を行った都 県の数	道府 -	現況報告書	なし	都道府県協議会で地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制 について協議し、体制整備を行った都道府県の数	令和3年度	43都道府県
	214104	がん患者の口腔健康管理のため院内又は地域の歯科医師と連携して対応している拠点病院等 合	の割 -	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	がん患者の口腔健康管理のため院内又は地域の歯科医師と連携して対応しているがん診療連携拠点病院等(456施設)	令和4年度	100%
	214105	「栄養サポートチーム加算」を算定している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(461施設)	「栄養サポートチーム加算」を算定しているがん診療連携拠点病院等(423施設)	令和5年	91.8%
アウトカム指標	214201	主治医以外にも相談しやすいスタッフがいた患者の割合	2055	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-9. 主治医以外にも相談しやすい医療スタッフがいた。	平成30年度	48.80%
	214202	医療スタッフ間で情報が十分に共有されていると感じた患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-7. あなた(患者さん)のことに関して治療する医療スタッフ間で十分に	平成30年度	69.10%
(ビリテーションの		<del>_</del>		<del>_</del>			<b>_</b>	<del>_</del>
プット指標	215101	がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数		ライフプランニングセンタ-からのデ-タ提供	なし	がんのリハビリテーション研修(E-CAREER)を修了している医療従事者の人	令和4年度	5,068人(累計 54,794人)
	215102	リハビリテーションに携わる専門的な知識及び技能を有する医師が配置されているがん診療連携投病院の割合	心点 2061	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	リハビリテーションに携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数について、1人以上の回答があったがん診療連携拠点病院(379施設)	令和4年度	92.67%
	215103	がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識及び技能を有する療法士等を配置して がん診療連携拠点病院の割合	こいる -	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	がんのリハビリテーションに係る業務に携わる専門的な知識および技能を有する 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の人数について、1人以上の回答 があったがん診療連携拠点病院(403施設)	令和4年度	98.53%
アウトカム指標	215201	拠点病院等(QI研究参加施設)に通院・入院中のがん患者でリハビリテーションを受けた患者の	の割 2062	院内がん登録+DPC	_	_	_	未測定
の推進	1 246404	1で 1×1 +ロ=火 + +立 ト			1+51	+*/ +ロ=火 ナ+☆ トー 、 トー		1.4.C10/H
プット指標	216101	がん相談支援センターにおけるアピアランスに関する相談件数	-	現況報告書	なし	がん相談支援センターにおけるアピアランスケアに関する相談件数	令和 3 年度	14,610件
	216102	リンパ浮腫研修の受講者数	-	ライフプランニングセンタ-からのデ-タ提供	なし	ライフプランニングセンター主催のリンパ浮腫研修を受講し、修了試験に合格した 者。累計は平成25年度~令和4年度。	· 令和4年度	408人(累計 4,595人)
	216103	リンパ浮腫外来が設置されている拠点病院等の割合		現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	リンパ浮腫外来を設置していると回答したがん診療連携拠点病院等(260施設)	令和4年度	57.02%
	216104	リンパ浮腫に対して専門的な治療を受けられた患者の数:H007-4 リンパ浮腫複合的治療料の 定回数		検討中(NDB等を活用し厚労科学研究 班で対応予定)	-	_	_	未測定
	216105	ストーマ外来が設置されている拠点病院等の割合	2078	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	ストーマ外来を設置していると回答したがん診療連携拠点病院等(414施 設)	令和4年度	90.79%
	216106	9掲 専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん記連携拠点病院の割合	診療 2040	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設)	専任のがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の薬剤師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(371施設)	令和4年度	90.70%
	216107	薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている拠点院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有常勤の医師が1人以上配置されている割合、地域がん診療病院:専任の薬物療法に携わる専的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	する ` ´	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(408施設)専任の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師が1人以上配置されている地域がん診療病院(47施設)	令和4年度	がん診療連携拠点病院:99.8% 地域がん診療病院:100%
	216108	がん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人上配置されている拠点病院等の割合(がん診療連携拠点病院:専従のがん看護又はがん薬物法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている割合地域がん診療病院:専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護が外来化学療法室に1人以上配置されている割合をそれぞれ評価)	勿療	現況報告書	がん診療連携拠点病院(409施設) 地域がん診療病院(47施設)	専従のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されているがん診療連携拠点病院(341施設) 専任のがん看護又はがん薬物療法に関する専門資格を有する常勤の看護師が外来化学療法室に1人以上配置されている地域がん診療病院(33施		がん診療連携拠点病院:83.4% 地域がん診療病院:70.2%
	216109	支持療法に関するガイドラインの数	2073	Minds登録数	なし	日本がんサポーティブケア学会(JASC)ウェブサイトで公開されている支持療法 関連のガイドライン刊行物(2023年11月現在)	令和5年11月	12冊 JASCCがん支持医療ガイドシリーズ (9冊) がん医療におけるこころのケアガイドラインシリーズ (支持療法関連2f その他 1冊
アウトカム指標	216201	治療による副作用の見通しを持てた患者の割合	2074	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-2. 治療による副作用の予測などに関して見通しを持てた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	61.90%
	216202	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合		患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問 35-5. 身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合		46.50%
	216203	外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合		患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 22. がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む) に関する悩みを誰かに相談で きましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	28.30%
	216204	拠点病院等(QI研究参加施設)において支持療法に関する標準診療を実施された患者の割	合 2071	院内がん登録+DPC	_	_	_	未測定
された時からの の提供	緩和ケアの推進							
プット指標	217101	拠点病院等の緩和ケアチーム新規診療症例数	_	現況報告書	なし	緩和ケアチームに対する新規診療症例数	令和3年	157,180例
	217101	特定疾患治療管理料がん患者指導管理料イの算定数	_	NDB	-			未測定
	217102	緩和ケア外来の新規診療患者数		現況報告書	(사)	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	 令和3年	31,173人
	217103	拠点病院等1施設あたりの地域連携推進のための多施設合同会議の開催数	-	現況報告書	なし	緩和ケアに関する地域連携を推進するための多職種連携カンファレンスを主催した数の平均		2.2回
	217105	#経ブロックの実施数:L101-神経ブロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)-腹腔神経叢ロック(神経破壊剤又は高周波凝固法使用)の件数	ブ -	検討中(NDB等を活用し厚労科学研究 班で対応予定)	<u> </u>	——————————————————————————————————————	_	未測定
	217106	緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数		現況報告書	なし	緩和ケア外来への地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	令和3年	5,855人
	-	方策の検討段階のため、指標設定無し	-					
	-	指標設定無し(方策の検討段階、及び引き続き実施する取組のため)	-	-				
	217107	時場 緩和ケア診療加算の算定回数 <	-	検討中(NDB等を活用し厚労科学研究		_	_	未測定
		検討段階のため指標設定無し(着実に検討を進めること)						

	# 再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
12-1-2-15-0								
和ケア研修会	217100		2017	がたなにかける蛇もも短和たってはな空車	+51	緩和ケア研修修了者数	<b>△</b> 和 4 左府 + ▽	171 702
アウトプット指標 中間アウトカム指標	217108 217201	版和ググ研修修了名数   医療者はつらい症状にすみやかに対応していたと感じる割合	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事 患者体験調査・遺族調査		機和グア研修修   有致   問 20-6. つらい症状にはすみやかに対応してくれた。 「とてもそう思う、 ある程度	令和4年度まで   平成30年度	171,792人 75.00%
下回 アフトカムコロイ赤	21/201	区次日はプラルが正代にすりたとかに入り心していたと恋しる計画		心甘怀厥的且,这次的且	1830患石体肿制育生四合石	そう思う」と回答した割合	十成30年度	7 3.00 %
	217202	患者報告アウトカム(PRO)の症状改善率 *期中に指標を開発予定	-	検討中(日本緩和医療学会からのデ-タ		_	_	未測定
	217203 再掲	身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合	2075	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答の		平成30年度	46.50%
					み)	「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	- N/-	
	217204	心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合	3011	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答の	問 35-6. 心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できる。 「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	32.80%
	217205		3002	  患者体験調査	(7)		平成30年度	76.30%
	217203	ガルとからによりが外外に一次長工石にラグ・で相談できたと恋しもガル心と自ららら	3002		1430重考休赔销谷全国参考	関して誰かに相談することができましたか。「「相談できた」と回答した割合		70.5070
	217206	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3003	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 30-2. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が	平成30年度	47.70%
						十分ある。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合		
	217207	医療従事者が耳を傾けてくれたと感じた患者の割合	2006	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 20-4. 医療スタッフは、あなた (患者さん) の言葉に耳を傾け、理解しようと	平成30年度	71.90%
	217200		2010			してくれていた。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	A和 F 左座	40.700/
	217208	国民の緩和ケアに関する認識	3018	世論調査		問 11. がん医療における緩和ケアとは、がんやがんの治療に伴う体と心の痛みをやわらげることです。あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきも	元和 5 年度 	49.70%
						のと思いますか。「がんと診断されたときから」と答えた割合		
	217209	国民の医療用麻薬に関する認識	3019	世論調査		問 12. あなたは医療用麻薬について、どのように思いますか。(複数回答可)	令和5年度	43.90%
			<u> </u>		R5がん対策に関する世論調査全回答者	「正しく使用すれば安全だと思う」と答えた割合		
孕性温存療法								
アウトプット指標	218101	がん・生殖医療の意思決定支援に関する人材育成を実施している拠点病院等の割合	-	現況報告書		がん・生殖医療の意思決定支援に関する人材育成を実施しているがん診療連	令和4年度	86.8%
	210102	+*/ +ロ=火 ナ+巫> カー/- +ハユフ「+イ フラールト - トー エニ±ムル ムヒ - !」− BB → フ - <sup>1</sup> ロ=ル / !+ ***		1月171 47 + +	+1	携拠点病院等(396施設)	A11.2 /r	2.121//
	218102 218103	がん相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数 日本がん・生殖医療登録システムJOFRへの登録症例数	-	現況報告書 日本・がん生殖医療学会からのデ-タ提供	なし	がん相談支援センターにおける「妊孕性・生殖機能」に関する相談件数 2024年1月22日時点で、がん・生殖医療登録システムJOFRに登録されてい	令和3年 会和4年	2,131件 1,319件
	210103		-	山本 1/10工/但位源于五川つのナーグ延供		2024年1月22日時点で、かん・王旭医療豆蘇システムJOFRに豆蘇されている は子性温存の症例数(胚(受精卵)凍結、未受精卵子凍結	137H T <del>11</del>	1,01011
					なし	卵巣組織凍結、凍結卵巣組織移植、精子凍結、精子凍結(精巣内精子採		
中間アウトカム指標	218201		2003			取術)の症例数の合計) 問 16. 最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影	平成30年度	52.00%
中间アノアカムは保	210201	一方所知的に、王/回域能への影響に関する此所で文のたが心思由・30次の剖白	2093	心台 体积的 直、小儿心台 体积的直	1830更为体际调合40 武术流0回令为	響について説明を受けましたか。「説明があった」と回答した割合	一	32.00 %
	218202		-	検討中(jRCT)	_	-	_	未測定
_ がん、難治性がん対策					•	•	•	•
少がん対策								
アウトプット指標	220101	希少がんホットラインへの問い合わせ数	-		なし	以下で実施している希少がんホットラインへの問い合わせ件数	令和4年度	3521件
	220102	「がん情報サービス」または「希少がんセンター」に掲載された希少がんの数および当該ページへのPV数	-	国立がん研究センタ-からのデ-タ提供		【がん情報サービス】	令和5年3月	がん情報サービス掲載された希少がん数:68がん種
					なし	2023年3月: がん情報サービス内の希少がんがん種数 2020年4月~2023年3月: 新規・更新数		新規・更新: 28種 希少がん68がん種のPV: 6,480,669PV
						2020年4月~2023年3月:新成・史新数  2022年4月~2023年3月希少がんPV数	节机4年4月~节机3年3月	希少がん: がん種78ページ
	220103	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院等の数	-	現況報告書	_	-	_	未測定
	220104	中央病理コンサルテーションの数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	なし	国立がん研究センターで受けた2022年4月~2023年3月の病理コンサルト件	令和4年度	800件
	220105	希少がんに対する臨床試験を実施している拠点病院等の数	-	現況報告書	_	_	_	未測定
	220106	希少がんに関するガイドラインの数(がん種に対するガイドラインの作成率)	-	Minds登録数	_	_	_	未測定
中間アウトカム指標	220201	治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた希少がん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査希少がん暫定定義該当回答	問 20-1. 治療スケジュールの見通しに関する情報を十分得ることができた。「と	平成30年度	75.70%
	220202	参小が/ 診療が手物的に至は3.47いる物 上院院等にかは2.25時間が新		 現況報告書 + 院内がん登録	首	てもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合		十四中
	220202 220203	希少がん診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数 希少がん患者の初診から診断までの時間、診断から治療開始までの時間	2082	現が報告書 + 院内がん豆琢   患者体験調査	_	   問 11. 医師からがんと説明(確定診断)されてから、最初の治療が始まるま	一 亚成30年度	未測定 72.30%
	220203		2002	心口外吸入叩旦	H30患者体験調査希少がん暫定定義該当回答			/ 2.30 /0
					者	月未満」と回答した人の割合		
_ 治性がん対策		<u> </u>				•		•
アウトプット指標	220107	難治性がん*8に関するHP等の整備を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書	_	_	_	未測定
	220108	難治性がん*8診療を積極的に受け入れている拠点病院等の数と他施設へ紹介する拠点病院の数	-	現況報告書	_	_	_	未測定
<b>中田フウレナノ北</b> 地	220109	難治性がん*8に対して臨床試験を行っている拠点病院等の数	-	現況報告書	_	<del>-</del>	_	未測定
中間アウトカム指標 がん・AYA世代のがん		難治性がん*8診療を積極的に受け入れている拠点病院等における治療開始数		現況報告書 + 院内がん登録	<u> -</u>	<u> -</u>	<u> </u>	未測定
<u>かん・AYA色代のかん)</u> 小児がん対策	AK C							
アウトプット指標	230101	小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の数	-	現況報告書(小児がん)	451	小児がん拠点病院等で小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識及び技能	令和4年度	727人
			<u> </u>		<b>な</b> し	を有する医師の数		
	230102	小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技術を有す	-	現況報告書(小児がん)	A),	小児がん拠点病院等で小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な	令和4年度	593人
	222.25	る医師の数		TRND+D4		知識及び技術を有する医師の数	A 4 4 4 4	
	230103	小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院等で小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および	令和4年度	566人
	<del>  _                                   </del>					技能を有する医師の数		
	230104	週切な測定指標が無いため指標設定無し   小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を習得している看護師の	-	-  現況報告書(小児がん)		小児がん拠点病院等における小児がん看護に関する専門的な知識や技能を	令和 4 年度	204人
	250107	では、101年に1947では、101年に1947で1日時に対する4月11年344年に1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年で1947年で1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年で11年34年に1947年に19			なし	習得している看護師の数	13/14 寸 <del>竹</del>  又	20 1/1
	230105	- 数 - 小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及	-	現況報告書(小児がん)	+51	小児がん拠点病院等における医療環境にある子どもや家族への療養支援に関	令和4年度	223人
		び技能を有する者の数			なし	する専門的な知識及び技能を有する者の数		
		の技能で有りる目の数						
	230106	都道府県協議会で長期フォローアップの連携体制について議論している都道府県数	-	現況報告書	치,	都道府県協議会で長期フォローアップの連携体制について議論している都道府	令和4年度	25都道府県
			-		なし	都道府県協議会で長期フォローアップの連携体制について議論している都道府   県数   長期フォローアップ外来を設置している小児がん拠点病院等の施設数	令和4年度 令和4年度	25都道府県 123施設

7	#	再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
中間アウトカム指標	230201		小児がん拠点病院で治療を受けた小児がん患者の割合*11	-	全国がん登録+院内がん登録	最新は、2018-2019年院内がん登録症例に関するもの下記報告書のP11、12の数値や、プレスリリースの表1から計算可能。 この数値は小児がん拠点病院連絡協議会などでも報告しております。 報告書: https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/pdf/2018_2019_icccaya.pdf プレスリリース: https://www.ncc.go.jp/jp//information/pr_release/2023/1115/index.html	小児がん拠点病院15施設で治療を開始された小児がん患者は、 1,560/4,688	平成30~令和元年	33.3%
	230202		がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると思う小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 40-2. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	39.70%
	230203		長期フォローアップについて知っていると回答した小児がん患者の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査全回答者	問 44. 長期フォローアップについて、知っていますか「よく知っている、ある程度 知っている」と回答した人の割合	令和元年度	52.90%
	230204		小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数	-	現況報告書(小児がん)	なし	小児がん拠点病院において実施されている小児がんに関する治験数	令和4年	82件
AYA世代のがん対策 アウトプット指標	230108		多職種からなるAYA支援チームを設置している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	多職種からなるAYA支援チームを設置していると回答した拠点病院等(105施設)	令和4年度	23.03%
中間アウトカム指標	230205		がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じる若年がん患者の割合	3002	患者体験調査	H30患者体験調査40 歳未満の回答者	問 12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相 談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	89.00%
	230206		外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができた若年患者の割合	2076	患者体験調査	H30患者体験調査40 歳未満の回答者	問 22. がん治療による外見の変化(脱毛や皮膚障害などを含む) に関する悩みを誰かに相談で きましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	46.30%
	230207	再掲	治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けたがん患者・家族の割合	2093	患者体験調査、小児患者体験調査	H30患者体験調査40 歳未満の回答者	問 16. 最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明を受けましたか。「説明があった」と回答した割合	平成30年度	52.00%
高齢者のがん対策					·		<u> </u>		·
アウトプット指標	240101		当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに 関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について 検討を行っている拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っていると回答した拠点病院等(445施設)	令和4年度	97.59%
	240102		実態把握の段階/適切な測定指標が無いため、指標設定無し(着実に推進すること) 意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をして	-	<del>-                                   </del>			<b>○</b> ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	99.56%
	270102		にある人と能力を含む機能計画を170、各種ガイトプイプに占って、個別の状況を聞よれた対応をしている拠点病院等の割合	_		がん診療連携拠点病院等(456施設)	を踏まえた対応をしていると回答した拠点病院等(454施設)	·	
中間アウトカム指標	240201		医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携は良かったと回答した人の割合	-	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問13k. 医師・看護師・介護職員など医療者どうしの連携は良かった,回答選択肢「4 ややそう思う〜6 非常にそう思う」と回答した割合	令和元~2年	79.4%
	240202		患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した人の割合	1	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問22c. 患者さまがお亡くなりになる1カ月前頃までに、最期をどこで過ごすかにないて、患者さまは主治医と十分に話し合いができましたか,回答選択肢「3 そう思う~4 とてもそう思う」と回答した割合		35.7%
<b>が規医薬品、医療機器及び</b>	医療技術の速								
アウトプット指標	-		あり方の検討段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
アウトプット指標	250101		臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口を設置している拠点病院 等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口を 設置しているがん診療連携拠点病院等(352施設)	令和4年度	77.19%
	_		指標設定無し(既存制度の適切な活用を引き続き実施。指標が必要と認められた場合には見直 し)	-	-				
	-		課題整理・方策検討の段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
±00=±111165	-		課題整理・方策検討の段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
中間アウトカム指標	250201		がんに関する臨床研究数	-	検討中(jRCT)	-	<u> </u>	<u> </u>	未測定

	#	再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
ともに尊厳を持ってる			<del>-</del>	<u> </u>	Teb +v // EA-ma*			<b>亚-</b> 400 左左	
分野別アウトカム指標	300001		がん相談支援センターを利用したことのある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査問31 - 1で、かん相談支援で   ンターを「利用したことがある」とした回答者	せ 問31-3.がん相談支援センターを利用してどの程度役に立ったと思いますか「と ても役に立った、ある程度役に立った」と回答した割合	平成30年度 	72.00%
	300002		ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査問32-1で、ピアサポートを 「利用したことがある」とした回答者	問32-3.がん相談支援センターを利用してどの程度役に立ったと思いますか「とても役に立った、ある程度役に立った」と回答した割合	平成30年度	73.60%
	300003	再掲	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	3022	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 30-2. がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が	平成30年度	47.70%
	300004	 再掲	 治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	-			十分ある。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	75.00%
						H30患者体験調査全回答者	問 15-1.「がん治療」を決めるまでの間に医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた。[とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した患者の割合		
	300005		がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問8. インターネットなどで入手できるがんの治療法に関する情報の中には、手術や抗がん剤だけではなくさまざまな新しい治療法に関する情報があります。あなたは、これらの情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思いますか。「あると思う」「ある程度あると思う」と答えた割合		90.10%
	300006		望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	3034	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18d. 死亡前1カ月間、望んだ場所で過ごせた,回答選択肢「5 ややそう思う~7 とてもそう思う」と回答した割合	令和元~2年	47.9%
	300007	再掲	在宅で亡くなったがん患者の医療に対する満足度	3033		5 2019-2020年遺族調査回答者のうち、自宅死	問14. お亡くなりになった場所で受けた医療は全般的に満足でしたか, 回答	令和元~2年	79.1%
	300008		  治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したがん患者の割合	_	ち在宅死亡) 患者体験調査	亡者	選択肢「3 やや満足〜6 非常に満足」と回答した割合問 18. 治療費用の負担が原因で、がんの治療を変更・断念したことがあります	平成30年度	4.90%
						H30患者体験調査全回答者	か。「ある」と回答した割合		
	300009		金銭的負担が原因で生活に影響があったがん患者の割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 19. 病院で医療を受けるために必要な金銭的負担が原因で、次に挙げたようなことがありましたか。(当てはまるものすべてに〇)いずれかの選択肢を選択あるいは「その他」に記載のある回答者(=「上記のようなことはなかった」以外の回答者)の割合	( 半成30年度   	26.90%
	300010	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3002	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に 関して誰かに相 談することができましたか。「相談できた」と回答した割合	平成30年度	76.30%
	300011		身体的・精神心理的な苦痛により日常生活に支障を来しているがん患者の割合	3014	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答の み)		平成30年度	69.20%
	300012		がん患者の自殺数	3050	革新的がん自殺研究推進プログラム	なし	2016年に日本でがんと診断された患者 1,070,876名(全国がん登録)の うち、診断後1年間での自殺者数	2016年	449名
	300013		がんであることを話せる割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問 13. あなたががんと診断されたら、家族や友人などだれか身近な人にがんのことを話せると思いますか。「話せると思う」「どちらかといえば話せると思う」と答えた割合	令和5年度	93.20%
	300014		がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	-	小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問 35.で診断された時就学していたと回答した人	問 36(1). 教育について、がん治療のために以下のようなことがありましたか。 {小学校;中学校;高等学校;特別支援学校;大学(短期大学を含む); その他}を{転校(籍・副籍を含みます);休学;退学;その他}している(い た)、について回答した人の割合	令和元年度	87.50%
	300015		人生をまっとうしたと感じていた患者の割合	-	遺族調査のサブグル-プ解析(仮)*9	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者	問181. 死亡前1カ月間の状況について、患者さまは人生をまっとうしたと感じていた, 回答選択肢「5 ややそう思う~7 とてもそう思う」と回答した割合	令和元~2年	53.8%
支援及び情報提供 <u></u> 炎支援について									
アウトプット指標	311101		がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数(全国の拠点病院等での総数)	-	現況報告書	なし	がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数	令和3年	328,392件
	311102		相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	-	現況報告書	なし	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	令和4年度	3,931人
	311103		上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	-	現況報告書	なし	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	令和4年度	1,250人
	-		あり方の検討段階のため指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	- T2/2+24-2-	151		A 70 = 6	0.007/4
	311104		拠点病院等1施設あたりの連携している患者団体の数	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等が連携している患者団体の数の平均	令和 5 年	3.3団体 8.1回
中間アウトカム指標	311105 311201		拠点病院等 1 施設あたりの体験を語り合う場の開催数 がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合	3023	現況報告書 患者体験調査、小児患者体験調査	<b>な</b> し	がん患者及びその家族が体験等を語り合う場の開催数の平均	令和 3 年 平成30年度	8.1回   66.40%
一一回アクトカムは伝				3023		H30患者体験調査全回答者	問 31. がん相談支援センターを知っていますか。「知っている」と回答した割合		
	311202		治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問 6. あなたは、がんと診断された場合、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか。(複数回答可)「がん診療連携拠点病院の相談窓口であるがん相談支援センター」と答えた割合		43.80%
	311203	再掲	がんと診断されてから病気や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	3021	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 12. がんと診断されてから治療を始める前の間に、病気のことや療養生活に関して誰かに相談することができましたか。「「相談できた」と回答した割合	平成30年度	76.30%
	311204	_	ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	3024	患者体験調査	H30患者体験調査全回答者	問 32. ピアサポートを知っていますか。「知っている」と回答した割合	平成30年度	27.30%
<b>促提供について</b>	<del>                                     </del>		ものナの松計の吹かればIRIは、ヒッセは悪い・ウォー (ギウェ・ム・ナ・ケリファ・ハ						
個別施策 アウトプット指標	312101		あり方の検討段階のため現時点で指標設定無し(着実に検討を進めること) がん情報サービスにアクセスした件数	-	-		がん情報サービスの年間ページビュー数(2022年4月1日~2023年3月31	令和4年度	51,646,076
アフトンット担保			/J//UIFIFIKソー ころにアフ ころし/ご 十女X			なし	日)		J1,U40,070
	312102		がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数	-	国立がん研究センターからのデータ提供	 なし	がん情報サービス「一般向け」のページの248コンテンツ(2023年12月)のうち、過去3年間(2020年4月1日~2023年3月31日)に更新した、のべ更新コンテンツ数	令和 3 ~ 5 年度	246 (2020年67、2021年83、2022年96)
	312103		がん情報サービスにおける点字資料、音声資料数、資料の更新数	3026	国立がん研究センタ-からのデ-タ提供	なし	がん情報サービスに掲載した音声資料数、新規掲載・更新された資料数がん情報サービスの資料で点字資料がサピエに新規掲載・更新された数	令和5年4月1日 令和2年4月~令和5年3月	がん情報サービスに掲載している音声資料:158コンテンツ 新規掲載・更新した音声資料:のべ182コンテンツ(複数回の更新を含む 点字資料はがん情報サービスへの掲載なし がん情報サービスのコンテンツで、「サピエ」(※)に新規掲載・更新された掲 た点字資料数:22 ※「サピエ」:視覚障害者等向けの点字、音声データなどで提供するネット
中間アウトカム指標	312201		治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合	-	世論調査	R5がん対策に関する世論調査全回答者	問 6. あなたは、がんと診断された場合、がんの治療法や病院に関する情報について、どこから入手しようと思いますか。(複数回答可)「国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」」と答えた割合	令和5年度	22.80%
中間アウトカム指標	312201		治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合	3025		R5がん対策に関する世論調査全回答者 E 2023年3月20日~4月3日実施アンケート(該 当項目の有効回答604)アンケートの回答者	ついて、どこから入手しようと思いますか。(複数回答可)「国立がん研究センターのウェブサイト「がん情報サービス」」と答えた割合	令和 5 年度 令和 5 年3月20日~4月3日	22.80% 87.10%

	#	再掲	指標	3期	デ-タソ-ス	対象 (分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
に基づく緩和ケア等	等の患者支援								
施策  ポルトに標	320101		あり方の検討段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること) 専門医療機関連携薬局(傷病の区分:がん)の認定数	-	-  厚生労働省調べ	4.1	古田広広州田本作英島(佐広の広八・ギハ)の司ウザ	<b>一</b> 令和 5 年 3 月31日時点	141施設
フトプット指標						なし	専門医療機関連携薬局(傷病の区分:がん)の認定数		
	320102		地域緩和ケア連携調整員研修受講者数	-	地域緩和ケアネットワーク構築事業 NDB	<del>-</del>	<del> -</del>	令和4年度	計57名 (ベーシックコース第1回:27名、第2回:30名)
ト間アウトカム指標	320103 320201		診療情報提供料(II)の算定数  がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	3032		_	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	未測定 34.90%
や回ググトガム対象	320201		がの自然的に、ピカントイピニオンに関する品を支がたがの志省の割占	3032		H30患者体験調査全回答者		十/成30 <u>4/</u>  支	34.90%
	320202	再掲	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった	-	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問22c. 患者さまがお亡くなりになる1カ月前頃までに、最期をどこで過ごすかについて、患者さまは主治医と十分に話し合いができましたか,回答選択肢「3 そう思う~4 とてもそう思う」と回答した割合		35.7%
í等の社会的な問題 ☑援について	<b>風への対策(サ</b>	バイバーシッ	プ支援) 						
別施策	I - I		指標設定なし(着実に検討を進めること)	-	-				
<u> アウトプット指標</u>	331101		拠点病院等のがん相談支援センターにおける就労に関する相談件数		現況報告書	なし	■ がん相談支援センターにおける就労に関する相談件数	<b>令和3</b> 年	27,112件
	331102		療養・就労両立支援指導料の算定件数**がんについて	-	NDB	_	-	_	未測定
	331103		拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等における就労の専門家による相談会の回数	令和4年	5,337回
	331104		ハローワークと連携した就職支援をおこなっている拠点病院等の割合	3044	長期療養者就職支援事業報告	がん診療連携拠点病院等(456施設)	ハローワークと連携した就職支援をおこなっているがん診療連携拠点病院等	令和5年4月1日時点	51.54%
	331105		長期療養者就職支援事業を活用した就職者数 *がんについて	-	長期療養者就職支援事業報告	なし	就職による支援終了者数(がん等の悪性腫瘍)	令和4年度	2,224人
	-		指標設定なし(着実に検討を進めること)	-	-				
	-		指標設定なし(着実に検討を進めること)	-				0.50 4.5-	
588751 / IV	331106		両立支援コーディネーター研修修了者数	-	事業報告(労働者健康安全機構)	は20日本仕野田27で50世には、1977で、	両立支援コーディネーター基礎研修修了者数 7 間 20 治療な投資を持ちるがはまたのがまた。	令和4年度 平式20年度	5,608人
中間アウトカム指標	331201		治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	3041	患者体験調査		問 28. 治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから話がありましたが、「話があった」と回答した割合	平成30年度 	39.50%
	331202		がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合	3042	患者体験調査	仕事をしていた」と回答したがん患者 H30患者体験調査問24.で「診断時、収入のある仕事をしていた」と回答したがん患者	りましたか。「話があった」と回答した割合問 29(1). がんと診断された時のお仕事について、がん治療のために以下のようなことがありましたか。「上記(休職・休業や退職・廃業)のようなことはなかった」と回答した人の割合	平成30年度	26.00%
	331203		退職したがん患者のうち、がん治療の開始前までに退職した者の割合		患者体験調査	H30患者体験調査問24.で「診断時、収入のある仕事をしていた」と回答したがん患者	問 29(1). がんと診断された時のお仕事について、がん治療のために以下のようなことがありましたか。「退職・廃業した」と回答した人の割合		19.80%
	331204		治療と仕事を両立するための社内制度等を利用した患者の割合	3046	患者体験調査	H30患者体験調査問27で「診断時、収入のある 仕事をしていた」と回答したがん患者	問 27. 治療と仕事を両立するために利用したものについて、お答えください。 (当てはまるも のすべてに〇) いずれかの選択肢を選択あるいは「その他」に記載のある回答者。(=「上記のものは何も利用していない」以外の回答の割合	平成30年度	36.10%
	331205		治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合	3047	患者体験調査	H30患者体験調査問27で「診断時、収入のある 仕事をしていた」と回答したがん患者	問 26. がんの治療中に、職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があった。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	65.00%
アランスケアについて	222404			<u> </u>		451	フピフニンフトフITMタ /	A和 F 左座	712777777777777777777777777777777777777
ウトプット指標	332101 332102		アピアランスケア研修(e-learning)修了者数 拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数	-	国立がん研究センターアピアランス支援セン 現況報告書	/ なし	アピアランスケア研修(e-learning)2023年度修了者数がん診療連携拠点病院等におけるアピアランスに関する相談件数	令和 5 年度	アピアランスケアe-learning: 911名
中間アウトカム指標	332102		拠点病院寺におりるアピアランスに関する相談什致   外見の変化に関する悩みを医療スタッフに相談ができたがん患者の割合	3048	現成報告書	40   H30患者体験調査全回答者	かん診療連携拠点病院等にありるアピアランスに関する相談件数   相談が必要だったができなかった	令和3年 平成30年度	83,684件 2.90%
<b>参断後の自殺対策に</b>		1119	/ 元の支信に対する個ので区域が入りりに信義がてきたがしむ自の部合	3040	心日仲贵即且	1130心名 体积的 直土巴占省		十成50千皮	[2.90 /0
アウトプット指標	333101	再掲	緩和ケア研修修了者数	3017	がん等における新たな緩和ケア研修等事	なし	緩和ケア研修修了者数	令和4年度まで	171,792人
717713H3X	333102		自殺リスクに関する研修を実施した拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	自殺リスクに関する研修を実施したがん診療連携拠点病院等(136施設)	令和4年度	29.82%
	333103		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料イ算定数	-	NDB	_	_	_	未測定
	333104		特定疾患治療管理料 がん患者指導管理料口算定数	-	NDB	_	_	-	未測定
	-		実態把握の段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
中間アウトカム指標	333201	再掲	心のつらさがあるときに、すぐに医療スタッフに相談できると感じている患者の割合		患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	う、ある程度そう思う」と回答した割合		32.80%
	333202		精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合		患者体験調査 遺族調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答の み)	問 36-4. がんやがん治療に伴い、気持ちがつらい。「あまりそう思わない、そう思わない」と回答した割合問18c. 死亡前1カ月間、おだやかな気持ちで過ごせた,回答選択肢「1 全く		62.0% 42.1%
	333203 333204		療養生活の最終段階において、精神心理的な苦痛を抱えるがん患者の割合 身体的なつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談ができると思う患者の割合		退族調宜 	2019-2020年遺族調査全回答者 H30患者体験調査回答者全体(本人回答の	そう思わない~4 どちらともいえない」と回答した割合		46.50%
			身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合		思有体験調查 患者体験調査	み)	では、第一日 33-3. 身体的なうらどがある時に、すべに医療スタックに相談できる。 12 CO そう思う、ある程度そう思う」と回答した割合 問 36-2. がんやがん治療に伴う身体の苦痛がある。 (身体の苦痛とは、痛み		55.40%
						H30患者体験調査回答者全体(本人回答の み)	に限らず、吐き気、息苦しさ、だるさ、しびれ、かゆみなどの、体のつらさを含みます) 「あまりそう思わない、そう思わない」と回答した患者の割合		
也の社会的な問題に	333206	再掲	療養生活の最終段階において、身体的な苦痛を抱えるがん患者の割合	3015	遺族調査	2019-2020年遺族調査全回答者	問18b. 死亡前1カ月間、からだの苦痛が少なく過ごせた,回答選択肢「1 全くそう思わない~4 どちらとも言えない」と回答した割合	令和元~2年	46.9%
の社会的な问題に  別施策	- T		検討段階のため指標設定無し(着実に検討を進めること)	_	-				
プウトプット指標	334101		情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(461施設)	情報取得や意思疎通に配慮が必要な者に対するマニュアルを作成しているがん 診療連携拠点病院等(179施設)	令和5年	38.83%
	334102	再掲	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数	令和4年	1,717回
中間アウトカム指標	334201		がんと診断されてから周囲に不必要な気を遣われている割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答の み)	問 35-3. がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合		12.3%
	334202		(家族以外の) 周囲の人からがんに対する偏見を感じる割合	-	患者体験調査	H30患者体験調査回答者全体(本人回答のみ)	問 35-4. (家族以外の) 周囲の人からがんに対する偏見を感じる。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した割合	平成30年度	5.3%

分野	# 再掲	指標	3期 デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値)
ライフステージに応じた療養	<b>養環境への支援</b>						
小児・AYA世代について アウトプット指標	341101	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養	- 現況報告書(小児がん) *10	ti),	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん	令和4年	2,259件
	341102	上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数 国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立成育	- 現況報告書(小児がん)		患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数 国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)	令和4年度	233人
		医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者の数		なし	を受講後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者		
	341103 341104	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数 長期フォローアップ外来を開設している小児がん拠点病院等の数	4023小児・AYA世代の長期フォロ-アップ体制-現況報告書(小児がん)	なし		令和4年度 令和4年度	250人(累計 1,196人) 123施設
	341104	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に 関する相談件数	- 現況報告書(小児がん) *10	なし	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん 患者に対する就労に関する相談件数	1-11-11-11-1	100件
	341106	小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数 あり方の検討の段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	- 現況報告書(小児がん) 	なし		令和5年	77団体
中間アウトカム指標	341201	治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合	3052 小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問 35.で診断された時就 学していたと回答した人	問 37. 治療を始める前に教育の支援等について、病院の医療スタッフから話がありましたか。「あった」と回答した人の割合	令和元年度	68.10%
	341202	がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合	- 小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問 35. で診断された時刻	問 36(2). 転校・休学・退学した方にお尋ねします。治療中に利用したものについてお答えください(当てはまるものすべてに○)。回答選択肢:{原籍校の教員が病院や自宅等にきて授業を受けた;病院内等に設置された特別支援学級(病室への訪問を含む)で授業を受けた:ICT 機器などを活用し、遠隔で授	令和元年度	75.90%
	341203	治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	3053 小児患者体験調査	R1小児患者体験調査問 35.で診断された時就 学していたと回答した人	問 39. 患者さんの治療中に、学校や教育関係者から治療と教育を両方続けられるような配慮があった。「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割金	令和元年度	76.60%
	341204	長期フォローアップについて知っていると回答した人の割合	- 小児患者体験調査	R1小児患者体験調査全回答者	日   日   日   日   日   44. 長期フォローアップについて、知っていますか。「よく知っている、ある程度   知っている」と回答した人の割合	<b>个</b> 和元年度	52.90%
	341205 再	場 治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	- 患者体験調査 <若年がん患者のみ>	H30患者体験調査問26「診断時、収入のある仕事をしていた」と回答したがん患者	問 28. 治療を始める前に就労の継続について、病院の医療スタッフから話がありましたか。「あった」と回答した割合	平成30年度	39.5%
高齢者について	341206	つらい症状には速やかに対応してくれたと思うと回答した人の割合	- 小児患者体験調査	H30患者体験調査全回答者		平成30年度	75.0%
アウトプット指標	342101 再	関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について 検討を行っている拠点病院等の割合	- 現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っていると回答した拠点病院等(445施設)	令和4年度	97.59%
	342102	介護支援等連携指導料の算定数(がん患者に限定)	- NDB	_	_	_	·未測定
	342103	退院時共同指導料1の算定数(がん患者に限定) あり方・施策の検討段階のため、指標無し(着実に検討を進めること)	- NDB	_	_	_	· 未測定
	342104 再			がん診療連携拠点病院等(456施設)	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ガイドラインに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしていると回答した拠点病院等(454施設)	<b>个和4年度</b>	99.56%
中間アウトカム指標	342201	介護をしたことで、全体的に負担感が大きかったと回答した割合	- 遺族調査のサブグル-プ解析(仮)*9	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者		<u></u> 令和元~2年	41.9%
	342202	医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携はよかったと回答した割合	- 遺族調査のサブグル-プ解析(仮)*9		問13k. 医師・看護師・介護職員など医療者どうしの連携は良かった,回答選択肢「4 ややそう思う〜6 非常にそう思う」と回答した割合	令和元~2年	80.2%
	342203	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあったと回答した割合	- 遺族調査のサブグル-プ解析(仮)*9	2019-2020年遺族調査回答者のうち、死亡年齢75歳以上の者	問22c. 患者さまがお亡くなりになる1カ月前頃までに、最期をどこで過ごすかについて、患者さまは主治医と十分に話し合いができましたか、回答選択肢「3 そう思う~4 とてもそう思う」と回答した割合	令和元~2年	32.7%
1. これらを支える基盤の整							<u> </u>
全ゲノム解析等の新たな技 アウトプット指標	支術を含む更なるがんの 	研究の推進 戦略を検討するものであるので指標設定無し ※次期「がん研究10か年戦略」を令和 5 年度中に策					
アウトプット指標	410101	定 「革新的がん医療実用化研究事業」事後評価	- AMED			令和4年度	大変優れている(計画を超えて大変進捗):5課題
				なし	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)の「革新的がん医療 実用化研究事業」の事後評価		優れている(計画を超えて進捗): 47課題 良い(計画どおり進捗): 50課題 やや良い(計画どおりに進捗していない部分があるが、概ね計画どおりに進捗) 14課題 良いとも悪いともいえない(計画どおりに進捗していない部分がある): 3課題
	410102	日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたゲノム変異にもとづくがんを対象とした臨床研究の数	- jRCT、AMED□	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題のうち、ゲノム変異にもとづくがんを対象とした研究課題の中で、日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録された臨床研究の数	令和4年度	14件
	410103	日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録されたAMED疾患領域(がん)の研究数	- jRCT、AMED□	なし	AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題のうち、日本臨床研究実施計画・研究概要公開システム(jRCT)に登録された臨床研究の数	令和4年度	95件
	410104	厚労科研の採択課題における事後評価の平均	- 厚生労働省調べ	なし	厚生労働科学研究がん対策推進総合研究事業の研究課題の当該事業の中間・事後評価の平均点数	令和4年度	13.5点
			后 <b>开</b>	+31	厚生労働科学研究がん対策推進総合研究事業の研究課題の当該事業の事	令和4年度	不十分な成果となった課題がなく、計画どおり順調な成果が得られた。
	410105	「がん政策研究事業」成果に関する評価	- 厚生労働省調ベ	<b>な</b> し	後評価		
中間アウトカム指標	410105	「がん政策研究事業」成果に関する評価 指標設定無し(着実に研究を推進すること) CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数	- 厚生労働省調へ 4014 論文デ-タベ-ス Dimensions	- -	後評価   -   -   -   -   -   -   -   -   -   -	_	
中間アウトカム指標	410105	指標設定無し(着実に研究を推進すること)			後評価  -  AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、研究成果を活	- 令和 4 年度	未測定 3件
中間アウトカム指標	410105 - 410201	指標設定無し(着実に研究を推進すること) CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数	4014 論文デ-タベ-ス Dimensions (PRIMO)	なし 一 なし	- AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数(対象年度のKPIとしての報告数) AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、研究成果を活		3件 新規:0件
中間アウトカム指標	410105 - 410201 410202	指標設定無し(着実に研究を推進すること) CSO(Common Scientific Outline)分類別・部位別論文数、引用数  (AMEDにおけるがんに関する)研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数	4014 論文デ-タベ-ス Dimensions (PRIMO) - AMED	なし - なし なし	- AMEDの疾患領域「がん」の各事業の研究開発課題における、研究成果を活用した臨床試験・治験への移行数(対象年度のKPIとしての報告数)	令和4年度	3件

<b>∕</b> \	<u>                                   </u>	1世	北台福	2#B	=" h\ 7	₩ <b>条(</b> △□	谷山十汁 (ムマ)	公田 / <del>计</del> 条 知 图 \	(女用 /测宁(病)
分野	#   <del>P</del> :	) <b>1</b> 5	指標	3期	デ-タソ-ス	対象(分母)	算出方法(分子)	結果(対象期間)	結果(測定値) 
人材育成の強化									
アウトプット指標	420101		がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事	_	文部科学省からのデ-タ提供			<u></u>	
7 7 7 7 7 3 1 13	.=0=0=		業評価			_	_		11,70
	420,102		がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数	4,022	がんのゲノム医療従事者研修事業(~	なし	がんゲノム医療コーディネーター研修会参加人数	令和4年度	583人
	120 102	<b>五</b> 坦	ギノロロジロー トニンエルグプログニナルグプロテムスを原本学事者の 1 米4	2.062	R4)、現況報告書(ゲノム)	+1		△卯 4 左座	F.OCO L. (用=L.F.4.70.4.L.)
	420,103 420,104		がんリハビリテーション研修プログラムを修了している医療従事者の人数 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数		ライフプランニングセンタ-からのデ-タ提供 小児・AYA世代の長期フォロ-アップ体制	なし かし	がんのリハビリテーション研修(E-CAREER)を修了している医療従事者の人 小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	令和4年度 令和4年度	5,068人(累計 54,794人) 250人(累計 1,196人)
	420,105		緩和ケア研修修了者数		がん等における新たな緩和ケア研修等事		緩和ケア研修修了者数	令和4年度まで	171,792人
	420,106		緩和ケアに特化した講座を設置している大学の数		文部科学省からのデータ提供	+21	全国公私立大学医学部において緩和医療に関する講座を設置していた大学		14大学
						40	の数		
中間アウトカム指標	420201		第4期がんプロで支援されたがん専門医療人材の人数	-	事業における取組状況調査	なし	「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の選定大学における本事業の受入 人数 (実績値)	令和5年度	1,820人(正規課程:427人、インテンシブコース:1,393人)
	_		今後、検討(人材の配置にについて、どのように評価を行うことが適切か、検討を行う。)	-	-				
がん教育及びがんに関する									
アウトプット指標	430101		外部講師を活用してがん教育を実施した学校の割合	4031	がん教育の実施状況調査	調査に回答した国公私立の小学校、中学校、義		令和4年度	11.4%
						務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別は特別	外部講師を活用してかん教育を実施した学校 		
	430102		がん情報サービスに含まれる項目数		 国立がん研究センタ-からのデ-タ提供	別支援学校 がん情報サービス「一般向け」のページ数		令和5年3月31日	 一般向けのページ数:1028ページ(うちHTML941ページ、PDF87コンテンツ)
	430102		がが開報が一て人に合みれる場合数	_		がん情報サービス「一般向け」のコンテンツ数	医療者向け、統計情報、目次、冊子等の分割情報、過去のお知らせを除く。	刊作り牛り/ブラエロ	一般向けのコンテンツ数: 248コンテンツ
	430103	再掲	拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミナー等の開催回数(総数)	-	現況報告書	なし	がん診療連携拠点病院等で実施した、地域を対象とした、がんに関するセミ	令和4年	1,717回
	430104		がん対策推進企業アクションの参加企業数	4033	厚生労働省調べ	なし	がん対策推進企業アクションに参加している企業・団体の数	令和4年度	4,897社·団体
中間アウトカム指標	430201		「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」に対して「正しい」と回答した割合	-	がん教育総合支援事業事業成果報告書	がん教育総合支援事業を受託した自治体において、がん教育の授業を受けた児童生徒	授業後のアンケートで、「がんは誰もがかかる可能性のある病気である。」に対して「エレストロダ」を思う生徒	令和4年度	97.2%
	430202		 「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそ		   がん教育総合支援事業事業成里報告書		て「正しい」と回答した児童生徒 授業後のアンケートで、「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと	今和 4 年度	95.1%
	430202		う思う」と回答した割合		7770秋日心口又及尹朱子未从不报口自		思う。」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒	17/11 千千/文	33.170
	430203	再掲	がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思	-	世論調査		問8.インターネットなどで入手できるがんの治療法に関する情報の中には、手	令和5年度	90.10%
			う人の割合			  R5がん対策に関する世論調査全回答者	術や抗がん剤だけではなくさまざまな新しい治療法に関する情報があります。あな		
						NON PRICING OCCUMENTAL CONTROL OF	たは、これらの情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあ		
  がん登録の利活用の推進							ると思いますか。「あると思う」「ある程度あると思う」と答えた割合		
アウトプット指標	440101		全国がん登録の精度指標としてのMI比・%DCO	2111	全国がん登録	DCO分母: 2019年年間がん罹患数	DCO分子:死亡情報のみの症例	令和元年	DCO1.9%
7 7 7 7 16 15.	110101		上自370至新少阳及旧协CO COT III 70D CO	2111		MI比分母: 2019年年間がん罹患数	MI比分子:死亡数	13/14/0-1-	MI比: 0.38%
	-		指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
中間アウトカム指標	440201		利用件数(総数・年あたり)	-	厚生労働省調ベ/国立がん研究センター	審議会資料		令和4年まで	のべ総数
					からのデ-タ提供	https://www.mhlw.go.jp/content/10901			顕名 新規10件、更新16件
						000/001226013.pdf			匿名 新規38件、更新19件
 患者・市民参画の推進						2022年までの申請			
アウトプット指標	450101		都道府県がん対策推進計画の策定過程におけるがん患者を代表する者の参加割合(参考:性	4001	厚生労働省調べ	都道府県がん対策推進計画の策定に関する検討	都道府県がん対策推進計画の策定に関する検討会における構成員のうち、が	<b>令和5年</b>	13.1%
			別、年代等の多様性)			会における構成員の数	ん患者等を代表する者の参加割合		
	450102		厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数	-	厚生労働科学研究	なし	研究班開発カリキュラム・コードを付与して開催した研修会の開催回数	令和5年	1
	-		今後、検討(医療従事者側の患者・市民参画に係る啓発に関する活動の成果について、どのように	-	-				
			評価を行うか、検討を行う。)						
中間アウトカム指標	450201		がん対策を進めるためには国民の協力が広く必要であると考える人の割合	-	世論調査		問 18. 国は「患者・市民参画」を推進していますが、がん対策を進めるに当たっ	令和5年度	89.5%
							て、あなたはどのように関わりたいと思いますか。「対策を進めるためには国民の協		
						  R5がん対策に関する世論調査全回答者	力が広く必要であり、積極的に関わりたい」「対策を進めるためには国民の協力		
						NOW TO SERVICE OF THE PROPERTY	が広く必要であり、積極的に関わりたいが、どう関わればよいかよくわからない」「対		
							策を進めるためには国民の協力が広く必要であると思うが、積極的に関わりたい		
	450202		関係学会において患者・市民参画を知っていると回答した医療者の割合	_	検討中(日本癌治療学会からのデュタ坦	一般社団法人日本癌治療学会正会員を対象と	とは思わない」と答えた割合	<b>令和</b> 5年	47.80%
	730202		AIM J AICUJV·C心日 「P以夕間でMJCVIOC口口U/C色原口Vii)口	_	供)	する学会MLを用いたwebアンケートの回答者数	患者・市民参画について「言葉は知っている」、「言葉は知っているし、どの様なも	ארנו כי דיינו	17.0070
					* */	(1014名)	のか理解もしている」と回答した者(485名)の割合		
デジタル化の推進									
アウトプット指標	-		個別施策を検討する段階のため、指標設定無し(着実に検討を進めること)	-	-				
アウトプット指標	460101		患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している拠点病院等の割合	-	現況報告書	がん診療連携拠点病院等(456施設)	患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備していると回答した拠点 病院等 (368施設)	令和4年度	80.70%
	460102		セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を		現況報告書		病院寺 (368施設)   セカンドオピニオンを提示する場合は、必要に応じてオンラインでの相談を受け付	今和 4 年度	22.59%
	700102		確保している拠点病院等の割合	_		がん診療連携拠点病院等(456施設)	けることができる体制を確保していると回答した拠点病院等(103施設)	ד ווינו <del>†</del> /ע	22.33 /0
	460103		集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や視聴覚教材等がオンラ	-	現況報告書		集学的治療等の内容や治療前後の生活における注意点等に関する、冊子や	令和4年度	35.75%
			インでも確認できる拠点病院等の割合			がん診療連携拠点病院等(456施設)	視聴覚教材等がオンラインでも確認できると回答した拠点病院等(163施		
					10=1-		設)		
中間アウトカム指標	-		今後、検討(デジタル技術の活用のアウトカムをどのように評価するか、検討を行う。)	-	検討中				

## 注釈

- \*1. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院(各類型の特例型を含む)。
- \*2. がんゲノム医療中核拠点病院等における人数。
- \*3. がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院における人数。
- \*4. 大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんを想定。
- \*5. 地域がん診療連携拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院(各類型の特例型を含む)。
- \*6. 診療の質評価指標(Quality Indicator、QI)研究参加施設(2019年症例解析には591 施設が参加、うち、国指定のがん診療連携拠点病院等指定施設は 386 施設(拠点病院の 86%)。)
- \*7. 化学療法を遅延なく受けることができているかを評価。測定対象の定義や測定方法について、研究班で検討予定。
- \*8. 膵がんを代表例として想定。難治性がんの定義について、今後検討が必要。
- \*9. サブグループ解析は、遺族調査の結果を、75歳以上に限定して解析することを想定。
- \*10. 成人拠点におけるAYA世代のがん患者に係る相談件数も算出することを検討中(令和4年度では現況報告書に対応項目無し)。
- \*11. 小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型 1 を分母とする想定。
- \*12.拠点病院等における診療従事者の配置状況を割合で評価する指標については、参考情報として診療従事者数の推移についても確認を行う。